

### 平成24年度 学校経営計画及び学校評価

#### 1 めざす学校像

総合学科である本校では、多様性のもと、生徒が自らの能力や可能性を切磋琢磨して磨き上げている。有意義な高校生活を送れるように、生徒が主体となって、いろいろな取り組みを実践する力の育成を図ってきた。本校では特色である五つの系列を活かし、「豊かな人間性の涵養」とともに、「学力の向上」と「キャリア教育の充実」を図り、次代を担える「学び」に推進してきたが、平成23年度より「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」の指定校となり、生徒・保護者・地域のニーズを果たすよう努め、生徒の希望する進路保証を確かなものとするのできる学校をめざしている。そのため、下記事項を中心に取り組みを推進し、ビジョン達成をはかる。

- ・人間関係を豊かにして、相互の違いを認めあい協力し、他者とともに自己を高める。
- ・多様な社会で活躍できるよう規範意識を身につけ、社会性を培う。
- ・学習意欲を育て、授業等に集中して、基礎学力の向上を図り、自らことの本質を考える力を育てる。
- ・総合学科として数多くの社会との接点を取り、自らの生き方を考え、意志を培い、自他共に活かせる夢(生涯を通し)の実現に向けてチャレンジし続ける生徒を育てる。

#### 2 中期的目標

総合学科10年の実績をもとに、より一層生徒の進路希望を実現できるよう、図のように総合学科ならではの新たな学習システムを構築し、土台となるべき「学ぶ意欲」・「やる気」を気づかせ、同時に根付かせることにより生徒の伸びしろの伸展を図る。

このため、生徒の興味関心を掘り起こし、利他的な面からも自己の確立を促し、人間関係に強い、何事にも前向きに取り組むことのできる幅広い学力を身につけさせ、次世代を担う人材を育成できるよう努めたい。そのために

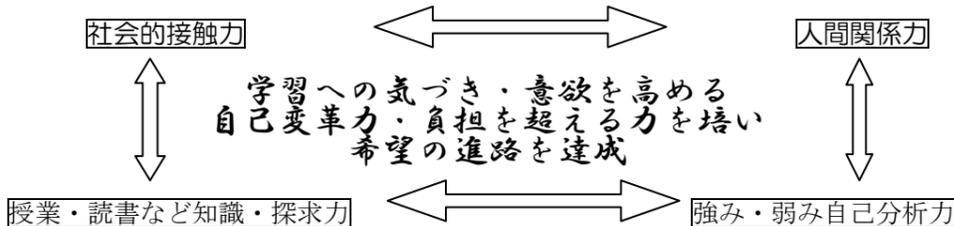
- 1)「自分なりの考えや意見を表現する力」
- 2)「他人と共同作業する力」
- 3)「企画したり実行したりする力」
- 4)「他人の考えや意見をまとめる力」の伸展を図る。

上記を生徒が実現できるよう、次の3点を中期目標としてあげ、教職員が、協力して組織的に取り組めるよう「実践的キャリア教育」を柱として事業を推進する。

- I 五つの系列の充実を図り、本校独自の魅力ある選択科目を開設し、生徒の学習意欲を向上させる。また、校外で協働して取り組める催しに数多く参加し、社会に目を向け生徒自らの進路の幹を育てる。特に医療・看護系進学をめざす生徒にとって府立高校で最も信頼される学校となることをめざし、
- \*看護系大学への進学者数が専門学校進学者数を上回るためのより高度な専門性への取り組み、
  - \*本校の施設を利用し、府内の看護系教員の研修・授業向上のための交流の場として中心的な存在となることへの取り組みを行う。
- II 「学力の向上」を図るために、主に次の3点について実現を図る。
- \*教員相互の授業評価活動の推進 …全教員が年に1度研究授業を行うという取り組みを実施し、平成26年度に100%の達成をめざす。  
生徒の「授業がよく理解できる」という指標を平成23年度の60%から平成26年度に75%に向上させる。  
生徒の「選択授業の満足度」を平成23年度の70%から平成26年度に85%に向上させる。
  - \*補習・講習の組織的な実施 …夏期休業中に学習合宿を新たに展開するとともに、生徒の「希望する内容の講習があった」という指標を平成26年度に90%となるようにする。
  - \*図書館活用の振興・授業発表会の充実
- III 全教員による授業参観を推進するとともに公開授業として校外にも紹介し、成果検証を充実させ総合学科の実際の授業のあり方をより強力に発信する。

**総合学科での新たな学びのサイクル**  
 社会的ニーズの把握 ⇄ 教員自らのイノベーションを促進

五つの系列を図の四つの要素の向上をめざし各教科が担う



#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成25年2月実施分まで]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業について生徒は75%が難しいと評価し、授業を工夫している教員が(何人か)いたという評価は93%であった。より多くの教員の取り組みが必要である。</li> <li>・保護者は本校の学習評価に87.1%が適切だとしているが、教員間で指導に差があるとの指摘もある。授業評価をきめ細かく行う必要がある。</li> <li>・キャリアがイテックスについては保護者の85.6%としているが、教職員は74.5%が適切であると評価するにとどまる。一方生徒は80%となっている。教員の取り組み・生徒への働きかけを強化したい。</li> <li>・選択科目に関して、保護者の85.1%、教職員の87.2%が生徒の興味関心に応じていると評価している。さらに魅力的な選択科目の実施を目指して行きたい。</li> </ul> <p><b>【生徒指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の雰囲気・態度について生徒は92%がよいと自己評価している。</li> <li>・保護者は本校の生徒指導に84.8%が肯定的であるが、一部で「より厳しく」という声もある。基本的なマナーの確立に向け引き続き取り組みを進めたい。また、人権教育の機会と内容について、保護者の84.7%、教職員の95.7%が肯定的に捉えている。</li> </ul> <p><b>【学校運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は91%が総合学科を選んでよかったと評価し、84%の生徒が「自分で考える力・自主性を伸ばせた」と評価している。</li> <li>・保護者は本校の学校行事について93.3%が活発であると評価しているが、保護者の願いに応じているという評価は75.2%にとどまっている。これは「意思の疎通がきめ細かく行えている」という評価の72.3%と関連していると考えられる。一方教職員は85.1%が「願いに応じている」としている。今後、学校協議会やPTA活動の活性化・保護者との連絡方法の検討を推進する。</li> </ul>	<p>平成24年度 第1回協議会(平成24年10月5日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試制度の変更に伴って、学校説明会などでの本校のアピールの充実を図るべきではないか。</li> <li>・総合学科の高校らしい取り組みを通じて、大学名でなく、学びたい学部・学科への進学を重視する必要がある。即時に「〇〇大学何名」とは違った統計の取り方を工夫が必要である。</li> <li>・実践的キャリア教育で、著名人の講演を通じて生徒の意識に火をつけるという取り組みは面白いが、継続性を考える必要もあるのではないかと。また、著名人だけでなく、先輩の話や意見を生徒は比較的前向きに捉える傾向がある。</li> <li>・クラブ参加率の向上には、地域のサークルとの連携を考えてはどうか。</li> <li>・授業力の向上に向けて、全授業の公開が必要ではないか。また、いじめの早期発見・いじめへの姿勢も問われると思う。いじめの問題は危機管理として捉えるべきである。</li> </ul> <p>平成24年度 第2回協議会(平成25年3月4日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進学重視の総合学科」というコンセプトについて、総合学科高校の多様な活動の中でどのように位置づけられるのか、慎重に推進してほしい。また、進学の「中身」のきめ細かな分析が必要ではないか。</li> <li>・防災面で堺市の取り組みが大きく変化しようとしている。これに歩調をあわせて、生徒が安心して通学できる学校づくりにさらなる取り組みをお願いしたい。抜き打ちの避難訓練は評価できる。</li> <li>・進学での「推薦」について、ルールを決めている学校もある。学力がある生徒に対しての進学指導では参考になるのではないかと。進学実績の点で変化が起きる可能性もあると考えられる。</li> <li>・科目選択の決定時期が早いと考えられる。選択科目を決定してからも進路希望は変わるのではないかと。教科書の発注・教員計画の制約もあることは理解しているが。</li> <li>・キャリア教育に関して、高校生の頃に考えたものとは別の進路、職業につくこともある。ただ共通して言えるのは「心」を育てることの大切さである。教員と生徒1対1の信頼関係があれば、「いじめ」「体罰」はないと思う。本校では、多様な活動を通じて信頼関係が成立していると考えられる。</li> </ul> <p>※「学校評議会委員アンケート」では、学校の特色を打ち出すことによく努力している、と評価されるとともに、全体の取り組みに関して、否定的な評価は皆無であった。さらに協議会委員との連携の上に立ち、総合学科高校としての充実をめざし、学校改善を推進する。</p>

## 府立堺東高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
五つの系列の充実	1. 五つの系列の充実。	1. 各教科が系列の特色を生かしキャリア教育の観点のもとに学習指導を行う。 ・「実践的キャリア教育」の取り組みを継承し、著名人講演会を実施し、生徒の学習への取り組みを促進する。 ・「文化社会系列」では、「堺学」など本校の特色ある科目を継続・発展させる。 ・「英語系列」では、従来の国際理解教育・国際交流推進の観点から、全校生徒参加の英語スピーチ大会などを実施する。 ・「理数系列」では、数学の少人数展開を基にして、中間層の理数系の力の向上を図る。 ・「医療看護系列」では、本校で毎年20%程度を占める看護系進学生徒について指導体制を強化し、より充実した授業内容を促してゆく。連携した病院・特養などに実習を体験させ、同時に本校の施設を利用し、府内の看護系教員の研修・授業向上のための交流を通して生徒の興味関心を喚起する。 ・「スポーツ芸術系列」では、スポーツテストの全員の実施や、きめ細かな選択科目の実施により生徒の特性を把握し個にあわせた指導を展開する。	1. 生徒の選択科目への満足度をアンケートにより測定し、80%以上とする。 ・各講演会について、生徒の満足度を80%以上とする。 ・「堺学」受講者の対外的な活動の増加を検証する。 ・校内英語スピーチ大会について、充実度を測るとともに、英検準2級以上取得の生徒数を今年度の13名から20名程度とする。 ・少人数展開に関する教科の評価の提出を求める。 ・看護系者大学進学者数が専門学校進学者数を上回ることを目標とする。 ・スポーツテストの参加率、本校生の平均値を大阪府・全国の数値と比較し、指導に役立てるとともに、芸術方面への生徒の進路希望の実現率を測定する。	1. 「大阪府総合学科アンケート」で選択科目の内容への肯定的意見が85%となった。(◎) ・平成24年12月13日実施の英語系列・林家染太氏、平成25年1月8日実施の医療看護系列・谷崎史医師の講演会で内容への肯定的評価が90%以上あった。(◎) ・「堺学」受講生徒による小中学校への授業参加・展示指導が具体化しつつある。(○) ・英検準2級以上合格者は、今年度現時点で12名となった。なお2級6名合格したのは初である。(△) ・少人数展開授業は「質問がしやすい」との生徒が80%を越えた。(○) ・看護系大学への受験者は増加傾向にある。(○) ・スポーツテストに関するデータは大阪の平均を上回る。(○) ☆今後、系列の特色の強化、独自の新たな取り組みの立ち上げを行う。
学力向上への取組み	2. 「自ら学ぶ力」の育成。  3. 「よりよくわかる授業」の実現。  4. 生徒に学習習慣を身につけさせる。	2. 生徒が自ら学ぶ姿勢をもつ選択授業を実現する。教科学習の中で生徒が自分で調べ、考え、発表する課題研究・授業発表会などの機会を増やし、他者の考えや意見をまとめる力を育成するとともに、図書館や自習室を有効に活用することにより、「自ら学ぶ力」の育成に努め、教科間の連携を図る。  3. 授業日数及び各教科・科目の授業時間の確保に努めるとともに、教員一人ひとりが自ら研鑽に努め、教員相互の授業公開などを通じて授業力を向上させる。  4. 全学年を通じて補習・補講に取り組み、生徒の学力向上に努める。 ・また一年次において学習の方法を十分指導するための学習合宿を実施する。 ・各学年団において「学習相談係」を新設し、学習面のサポート体制を充実させる。	2. 「選択授業が期待通りだった」という生徒を、現状の70%から75%以上とする。 ・学習成果発表会の成果を、「総合学科研究集会」などで発表する。 ・自習室の活用状況を把握し、活用生徒数の2割増加をめざす。  3. 生徒による授業評価を実施し「授業が理解できた」とする生徒が現状の76%から80%以上となることをめざす。 ・全教員の公開研究授業の実施率80%以上をめざす。  4. 夏季学習合宿の内容・参加人数。 ・全学年開講講習のインターネットでの公開。 ・生活アンケートによる生徒の家庭学習の時間の増加をめざし、今年40%であった1時間以上学習する生徒を60%以上にする。	2. 「大阪府総合学科アンケート」で選択科目の進路へのつながりへの肯定的意見が86%となった。(◎) ・「堺学」の授業成果、地学部の研究成果を「総合学科研究集会」で発表展示した。(○) ・自習室は連日午後8時まで開室し、利用希望にはほぼ完全に対応した。利用数は3割程度増加した。(◎)  3. 「理解できた」「どちらかというとききた」との生徒は79.3%となった。(△) ・授業公開に意欲的な教員は80%を上回る。授業公開週間、教育実習、公開研究授業等での公開を行った。(○)  4. 3年次の夏季学習合宿は計画日数・人員を越え、宿泊参加70名、非宿泊参加80名を数えた。(○) ・3年生は9月段階で88%が1時間以上家庭学習を行っている。(◎) ☆今後、生徒が参加しやすい講習の形態・土曜の活用を検討・推進する。
総合学科での新たな学び	5. キャリア教育の充実  6. 生徒の対外活動の支援・地域との連携  7. 共に学ぶ学校づくり  8. 人権教育の推進	5. 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」指定校として自立支援コースを含め、卒業後の進路を視野に入れたインターンシップ活動を、大学・短期大学・専門諸学校・企業と連携し、充実させる。  6. 総合学科高校である本校の特徴である「堺学」・「地学実習」を通じて地域との交流を深める活動を行う。特に「堺学」では、学習を通じてのボランティア活動などへ、生徒が企画から積極的に参加する形での取り組みを推進する。  7. 一般生徒と自立支援生徒の授業交流を推進するとともに、自立支援生徒について個別教育支援計画をもとに「Cステップ」など外部機関と連携し、今年度以上の就労支援体制を確立し、将来の自立への基礎固めを推進する。  8. いじめの発見や早期対応などを始めとして、生徒一人ひとりの人権を尊重する体制を一層充実させ、こころの教育の実現を図る。校外での職員研修への積極的な参加を推進するとともに、生徒の人権関係の発表会への参加を促進する。	5. 大学訪問・企業訪問し、レポートを提出した生徒の割合を今年度の90%から100%とする。 ・生徒の達成感・満足度をアンケートで測定し、80%以上とする。  6. 総合学科教育研究集会での発表について自己評価アンケートを実施し、充実感を80%以上とする。 ・ボランティア活動の活動状況今年度の実施数5、参加人数55名から、20%の増加をめざす。  7. 自立支援コース生の保護者へのアンケート・懇談を通じて、学校の就労支援・指導に対する満足度を計測し、90%以上をめざす。 ・就労体験の実施状況を、自立支援生徒に関して100%(全員)行うことをめざす。  8. 人権に係わる各種研修会の内容について肯定的な評価を80%以上とする。 ・大阪府教育委員会主催人権文化発表交流会への参加、発表。	5. 訪問活動参加の生徒の94%のレポート提出を確認した。(◎) ・参加生徒の行事満足度は90%となった。(◎)  6. 総合学科教育研究集会での発表者の80%がイメージ通りの充実した発表ができたとして自己評価した。(○) ・ボランティア活動の活動状況では、実施数7、参加数76名となった。(○)  7. 自立支援コース卒業生保護者アンケートで「本校で学んだことが子供にとってよかったと思うかとの問いに、「強くそう思う」と3名全員が回答した。(○) ・自立支援生徒の就労体験は100%を達成した。また、自立支援生徒全員の就職が決定した。(◎)  8. 研修内容によって若干の差はあるが、概ね平均80%程度の満足度を計測している。(◎) ・大阪府人権文化交流発表大会(2月2日)への自立支援生徒が参加、発表した。また、作文表彰該当生徒が1名となった。(○) ☆学校協議会での提言を踏まえ、総合学科高校としての多様な取組・「ともに育つ」取り組みを、研究発表大会などで積極的に発信する。